

〔目的〕前報の調査から、セーター類を上手に洗う自信のある人は少なく、収縮や型くずれを心配している人が多いことがわかった。そこで家庭における手洗いの問題点を明らかにし、“上手な手洗い”のあり方について検討するため、家庭における実際の手洗い行動の調査、およびこれらの行動が収縮や型くずれなどに及ぼす影響の検討を行った。

〔方法〕主婦、女性単身者を対象に、手洗い行動に関するアンケート調査および実際の行動観察を行った。また、市販セーターを用いて、洗たく、すすぎ、脱水、乾燥の各プロセスを通じて諸条件を変化させた時の、収縮率などを測定した。

〔結果〕①手洗い行動を見ると、洗い方は押し洗いが多いが、その動作には個人差が大きく、つかみ洗いに近い場合がある。また部分的にはもみ洗いも行われている。使用水は20～40℃で使われている。洗いの後、すすぎに移る前に脱水(脱水機)を行う人は1/3程度にとどまり、押ししぼりや、水切りしない人もいる。すすぎは2～5回水を変えて行われている。干し方はハンガーを使用する人が多く、平干しは少ない。②実験結果から、収縮、型くずれを防ぐには、洗い方は押し洗いが好ましく、水温は30℃前後からそれ以下が、また水量は多い方がよい。すすぎ回数を最小限にするために、すすぎ前に脱水を行い、干す前も脱水したのち、形を整えて平干しするのが望ましい。③家庭で手洗い時に気をつけている点は、水温の調節、力を加減するなどであるが、実際の作業ではまだ問題が見られる。上手に手洗いするためには、押し洗いを適正な動作で行う、すすぎ方にも充分留意し必要以上に行わない、脱水によって水切りする、干し方を工夫するなど重要である。